

目次

【中巻】

小説 「冬 吠 え」 (平成三年一月二十日) 3

第一章 帰郷 5

第二章 燻^{いぶ}り火 34

第三章 冬吠え 91

あとがき 176

「冬 吠 え」——書評 177

小説 「佐渡金山を彩った人々」 (平成十三年七月十五日) 181

第一章 船出 183 / 石扣町の家 187 / 陽光と影 191 / 島の女学校 198

第二章 無宿者と遊女たち 208 / 佐渡金銀山の発見と徳川家康 212 / 家康と大久保石見守長安 213 /

切支丹と金山の関係 214 / 明治維新後の佐渡金山 215 / 御料局民間へ払下げ 216 / 言葉と方言 217

第三章 佐渡金山入社 219 / 海色^{うみいろ} 233 / 鉾山まつり 234 / 「相川音頭」と「若浪会」 241 /

氏子まつり 242 / おんदैいこ 243 / 春駒 244

第四章 父の死 246 / 駆け急ぐ群像 256

第五章	夫婦の軌道	264
第六章	佐渡金山大縮小の譜	269
	／早春のかげろい	273
第七章	現場技師との出会い	285
第八章	日中戦争	303
	／女の戦場	312
	／疎開先で迎えた終戦	319
	／撃沈された大洋丸	321
第九章	三十八年ぶりのクラス会	325
	／想い出の技師たち	327
	／海鳴会	335
あとがき		340
「佐渡金山を彩った人々」	——書評	343